

【様式1】 平成29年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	美濃加茂市	学校名	三和小学校		
校長名	安田早由里	対象学年	全校児童	人数	23人
活動名	環境 ～ホタルの保護活動～		時間数	中学年 20時間 全校5時間	継続年数 41年
題材	① 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） ② 歴史（出来事・史跡・先人・その他） ③ 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） ④ 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） ⑤ 地域との積極的な関わりをつくる活動等 ⑥ その他（ ）			[ホタルの保護活動] [] [] [] [カワニナ養殖場環境整備作業等] []	
複数年継続するための工夫改善	・「三和の源氏ボタルを守る会」と連携し、ホタルを保護するための専門的な手法や対策をアドバイスいただきながら、活動を推進するよう努めた。 ・小規模校ならではのよさを生かし、保護者や地域に協力や支援を常に要請し、学校と家庭・地域が一体となって取り組むようにした。子ども達にとっても地域にとってもホタルは三和の宝であるという気風を生み出すよう努めた。				

1 ねらい

- (1) 小さいのちを愛おしみ大切にすることを育み、森や川をはじめ自然を大切にしようとする態度を養う。
- (2) 地域の方々や保護者とともに保護活動をすることで、三和の一員であることを実感し、郷土を愛する心情を育てる。

2 活動の概要

(1) 各種行事及び活動

4月・・・「ホタルを迎える会」※PTA総会・参観日に実施 保護者参加

冬の間育てた幼虫が、成虫となって三和の川に戻って来ることを願い、川浦川に放流する。あわせて、道路や川沿いの清掃活動を実施した。資料①

5月・・・ホタルの「上陸観察」※平日の夜に実施 3年生以上とその保護者参加

ホタルの幼虫が成虫になるために川から上陸してくる様子を川の中に入って観察した。資料②

6月・・・ホタルの「飛翔観察」※6月中旬の平日の夜、3回実施 3年生以上とその保護者参加 資料③

町内4か所に分かれ、飛んでいるホタルの数を計測すると共に、観光客に子どもたちが自らデザインしたうちわを配布し、環境美化を呼び掛けた。

6月・・・「ホタルナイト」※平日の夜に実施 児童・保護者・地域の方参加 来賓（美濃加茂市長様・教育長様・各教育委員様・教育委員会事務局の皆様）資料④

東海地方で活躍しているタレントとその関係のミュージシャンを迎え、トークと音楽の夕べを行った。会終了後は、参加者が誘い合って三和町内で、ホタルを觀賞した。

6月・・・親ホタル捕獲 ※6月下旬の夜に実施 学校職員のみ参加 資料⑤

職員と「三和の源氏ボタルを守る会」の方々と一緒に、川原へ行き、メスホタル5～6匹、オスホタル100匹程度を捕獲した。メス1匹、オス十数匹を一つのゲージに入れ、卵を産ませる準備をした。

10月・・・「ホタルを送る会」※参観日に実施 保護者参加

来年の夏に、美しい輝きを見せてくれることを願い、夏の間大きく成長した幼虫のみを放流。あわせて、道路や川沿いの清掃活動を実施した。資料⑥

(2) 児童会（ホタル体育委員会）活動

・ 日常の委員会活動（ホタル研究室の管理「気温・湿度の計測」）

（ホタルの幼虫の水替え）業間・昼休み・放課後の時間に活動

・ シーズン中の特別な活動（夏休み中の幼虫の水替え・3年生以上参加）資料⑦

(3) 外郭団体からの要請を受けた活動

・ カワナナ養殖場の環境整備作業及び神淵の若葉会との交流

6月・・・「三和の源氏ボタルを守る会」と七宗町神淵の「若葉会」との交流に、三和小児童、神淵小児童が参加し、清掃活動やレクレーションを通して親睦を深めた。資料⑧

6月・・・美濃加茂市生涯学習課主催の講座「ホタルのタベ」

三和小のホタルの保護活動について発表した。資料⑨

8月・・・美濃加茂市楽習ひろばにて、ホタルの保護活動発表 資料⑩

3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

「三和の源氏ボタルを守る会」は、三和小のホタル保護活動を推進していくために、なくてはならない団体である。中でも、会長のH様は、常に教頭と連携し、学校のホタルの保護活動を支えてくださる。幼虫を育てるための配慮事項、ホタルが飛翔する時期の気象状況からの読み、ホタル研究室の運営等、全てにわたり適切なアドバイスをしてくださる。

三和小学校では、ホタルのシーズンを迎える前と後には、必ず道路や川沿いの清掃活動を親子で行っている。また、ホタルの飛ぶ季節には、手作りのうちわを作成し、ホタル見学に来町した観光客の皆さんに手渡しし、環境保護を呼び掛けている。ホタルの餌となるカワナナ養殖場の環境整備にも、毎年、親子で取り組んでいる。

昭和43年、台風による豪雨と土砂崩れで大きな被害を受けた三和町は、ホタルが生息する護岸が悲惨な状況となり、「もう三和がなくなってしまうのではないか、三和にホタルが光る日は二度と来ることはない」人々をそんな思いにさせた。災害から見事復興し、現在、再びホタルが乱舞する町になったのは、三和小学校の子ども達が41年に渡り、守る会の皆さんや地域の皆さんにご支援をいただきながら環境美化と保護活動を進めてきたことにその一因があると、少なからず自負している。

4 活動を通しての児童生徒の変容 資料⑪

(1) 三和の宝物は「ホタル」と、児童の誰もが自信をもって口にすることができるまでに、保護活動を通して児童とホタルの結びつきが強くなり、学校の自慢となった。

(2) 「小さな命を見逃さない・見落とさない」の精神で幼虫を育てる活動を通して、命を大切にしようとする気持ちが育まれてきた。

(3) ホタルの育つ自然豊かな三和町をいつまでも大切にしたい、そのために環境保護に努めていこうという姿勢を育むことができた。

(4) 「なぜ光るの?」「何のために光るの?」と、ホタルの生態について専門的な知識を身に付ける児童が増えてきた。

(5) 保護活動の発表をする機会に恵まれ、人前で、ポイントを掴んで明確に話をすることのできる生徒が増えてきた。